

News

横浜市歴史博物館

YOKOHAMA HISTORY MUSEUM NEWS

2018.7
No. 45



[館長コラム vol.4] 館長が行く!横歴探訪

横浜に伝わる新羅華厳宗の高僧、見登の著作

人気投票報告

横歴myキャラクターズ決定!

戊辰の横浜
明治一五〇年企画展
展覧会担当者トーク

EXHIBITION これからの催しもの

企画展

明治150年記念企画展

戊辰の横浜 名もなき民の慶応四年

7月21日(土)～9月9日(日)

連携展示

「戊辰の横浜 開港都市の明治元年」

会場:横浜開港資料館 平成30年7月21日(土)～10月28日(日)

関連イベント

・講演会「戊辰戦争と横浜開港場」

9月2日(日)14:00～15:30

講師:保谷徹氏(東京大学史料編纂所所長)

事前申込(8月22日必着)

・講座

① 8月5日(日)「江戸周辺の内乱と民衆」宮間 純一氏(中央大学准教授)

② 8月19日(日)「新政府軍と横浜の村々」小林 紀子(当館学芸員)

③ 8月26日(日)「明治天皇の東幸と神奈川県の人々」

椿田有希子氏(早稲田大学文学学術院非常勤講師)

④ 9月15日(土)「戊辰戦争と三井」村 和明氏(東京大学准教授)

⑤ 10月6日(土)「戊辰の横浜 開港都市の明治元年」

吉崎 雅規(横浜開港資料館調査研究員)

⑥ 10月13日(土)「戊辰戦争期の海軍と港湾-横浜・横須賀・浦賀-」

神谷 大介氏(東海大学非常勤講師)

14:00～15:30 当日受付

会場:①～③は横浜市歴史博物館、④～⑥は横浜開港資料館

・展示担当者による展示解説

8月4日(土)、11日(土祝)、9月1日(土)、8日(土)14:00～14:45
当日受付

寄木細工 Art Folk History (仮)

9月22日(土)～11月11日(日)

横浜市指定・登録文化財展/神奈川の記憶展(仮)

11月23日(金・祝)～平成31年1月14日(月・祝)

横浜の野を駈ける-古代東国の馬と牧(仮)

1月30日(水)～3月21日(木・祝)

常設展示室ミニ展示

印融法印関係資料

7月21日(土)～9月2日(日)

金子コレクション(仮)

9月22日(土)～11月11日(日)

ちょっと昔を探してみよう・冬

11月20日(火)～3月31日(日)

*日程・内容は都合により変更になる場合があります。
詳細はHP等でご確認ください。

横浜市歴史博物館および大塚・歳勝土遺跡公園の利用案内

○開館時間

9:00～17:00(ただし券売は16:30まで)

大塚遺跡を除く公園部分は24時間オープン

○休館日

月曜日(祝日の場合は翌日)、年末年始 そのほか展示替えなどのため、臨時に休館することがあります。

○常設展観覧料

区分	個人	団体(20人以上、1人につき)
一般	400円	320円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	100円	80円

■特別展・企画展の観覧料は別に定めます。

■毎週土曜日は、小・中・高校生は無料です。

■横浜市内在住の65歳以上の方は無料です。「濱ともカード」など証明できるものをご提示ください。

■「身体障害者手帳」「愛の手帳(療育手帳)」「精神障害者保健福祉手帳」をお持ちの方と介護者は無料です。入館の際に手帳をご提示ください。

■補助犬(盲導犬、介助犬、聴導犬)とご一緒に入館できます。

○交通

横浜市営地下鉄「センター北駅」下車、1番出口から徒歩5分
(「センター北駅」へは横浜駅から23分、新横浜駅から12分)
・駐車場あり(1時間200円)



[URL] <https://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

[twitter] @yokorekihaku

横浜市歴史博物館
YOKOHAMA HISTORY MUSEUM

〒224-0003 横浜市都筑区中川中央1-18-1 Tel.045-912-7777(代表) Fax.045-912-7781

横浜市歴史博物館ニュースNo.45 2018年7月21日発行

[編集・発行] 横浜市歴史博物館 [デザイン] 株式会社トーン・アップ

横浜市歴史博物館は(公財)横浜市ふるさと歴史財団が指定管理者として管理運営しています。

戊辰の横浜

展覧会
担当者
トーク

展覧会担当者
吉崎雅規（横浜開港資料館）
小林紀子（横浜市歴史博物館）
聞き手
久保裕子（横浜市歴史博物館）
羽毛田智幸（横浜市歴史博物館）



吉崎雅規

小林紀子

羽毛田 今回は明治一五〇年企画展「戊辰の横浜」ということで、横浜市歴史博物館と横浜開港資料館と同時スタートで連携展覧会が開催されますので、それぞれの担当にお越しいただき、展覧会の共通のねらいや各館の違い・ポイントといったことをお話頂きたいと思っています。よろしくお願います。

明治一五〇年という節目

羽毛田 今年は明治一五〇年ということで各地で展覧会などが企画されていますが、**吉崎** 今年はやっぱり全国的にいろいろなテーマの戊辰関連の展示が多いですね。**小林** 「明治一五〇年」「幕末維新」「文明開化」といったテーマで目白押しですね。

横浜港と戊辰戦争

久保 横浜は戊辰戦争と何か関わりがあったのでしょうか。
吉崎 実は横浜港で仙台藩が武器を輸入し

ていたということが、横浜ではあまり知られていないんです。横浜ってどうしても生糸の輸出港っていうイメージが強く、有名な商人のグラバーが長崎で武器を購入して薩摩藩とか長州藩に売っていたっていうことはみんな知っているんだけど、実は横浜港で東北地方の藩に向けた武器をアメリカ商人が扱っていたんです。そのことを紹介したくて資料調査で仙台に行ってきた。

羽毛田 仙台ですか？

吉崎 有名な幕末の横浜のアメリカ商人にヴァンリードという人がいて、ハワイに移民を送っていたり新聞を発刊したりする一方で武器商人としての顔を持っていたんですね。そのヴァンリードの動きが仙台藩の資料から見えるんです。

久保 その資料というのは…？

吉崎 それは仙台藩の留守居役が慶応三年につけた日記なんですね。その中に、横浜でヴァンリードに会って小銃を買ったという明確な記述があるんです。幕末の日本で死の商人が活躍したっていう話は知られていますが、一次資料でそのことが確認

できるのは横浜では珍しい。日記だから何月何日に購入のためのお金を支給されて、それから横浜に行って、ヴァンリードと交渉してライフル銃を仕入れたという記録が確実にある、これは横浜にとっては一つの「発見」なんです。

久保 そうなんですか！

吉崎 もう一つ、別の仙台藩士がつけた日記にもあるんです。そこにはオランダ商人が扱うアメリカの軍艦を横浜で買ったという記録があるんです。日本は戦争だから売れるだろうと踏んで、死の商人たちが軍艦を売りに来ている、仙台藩がそれを買った。横浜が取引の現場になっていたことがそこからもわかる。だから戊辰戦争前後の横浜っていうのは、生糸輸出も非常に好調だったけれど、それだけではなくて武器も軍艦も輸入される現場であったということが見えてくる。

横浜の村々と戊辰戦争

小林 藩相手ではないけれど、土方歳三の義理のお兄さんの佐藤彦五郎が中心人物

だった日野宿（東京都）の農兵隊も慶応四年に横浜から銃を買っているんです。それが佐藤彦五郎の日記に書かれている。ただ誰から買ったのかっていうのは分からない。

吉崎 でも外国人商人からでしょうか。

小林 仲立ちしたのは今の川崎市宮前区・多摩区あたりにあった長尾村の人なんです。農兵隊の中に長尾村から日野に婿に入った人がいて、その伝手で買ったと思われます。この辺りの地域は横浜の開港場と関わりもあり、皆さんが想像するより多分、農村らしくないと思います。

羽毛田 そうなんですか？

小林 神奈川湊や横浜開港場、そして江戸にも近く、多摩川、鶴見川、東海道をはじめとする街道など水陸の交通の要衝だったこともあって、商売で財を成したような裕福な人たちも多いところだったんです。それで、さきほどの鉄砲の話ですが、横浜地域や川崎あたりは普通の村でも鉄砲を持っている人が多くいたんです。港ではなくて村のほうです。

久保 なぜですか？

小林 今回は明治一五〇年という年の展示ですが、実はその二年前に秩父地方で発生した武州世直しという大規模な打ちこわしがあって、多摩川沿いに一派が横浜方面に向けて南下をする動きを見せる。横浜地域で、多摩川・鶴見川の近くだと、綱島村に大きな名主さんのお宅があって、百姓ですが襲われる側なんですよ。そしてこの時、先ほどの日野の農兵と連絡を取り合って、

打ちこわしを防ぐのに協力をするんですね。その後、この綱島村や川崎宿の隣の市場村などが中心となって、農兵隊がこの辺りにふたつ結成され、代官からゲベル銃を貸与されたんです。農兵隊に参加しない村々ももちろんあったのですが、非常の時のために銃を持っても構わないということをしたの時の幕府の代官が指示したらしく、この辺りでは広く鉄砲を持っていたというわけなんです。

羽毛田 そういうことだったんですね…。

小林 そして、慶応四年に新政府軍が来た時、横浜の港の方は戦もなく神奈川奉行所が引き継ぎをして平和裏に受け渡される。

けれど、東海道を江戸に向かう新政府軍は、途中横浜市や川崎市にあたる村々で鉄砲を回収するんです。その時はまだ江戸城が開城されると決まっていなかったもので、もしかしら攻めるための準備だったのかもしれない。この辺りが江戸に向かっての最前線・最重要拠点という位置付けだったのかと思います。鉄砲を回収したという話は他の地域では聞いたことがない。これは川崎も含めて横浜市域の特徴的な村々の出来事です。

久保 大きなポイントですね！

小林 それがきっかけで結局農兵隊は武装解除されたのですが、鉄砲回収に特に携わったのが先鋒軍の一員だった備前岡山藩です。そして今回、岡山県立図書館に回収に携わった人物の日記があることがわかったのです。農兵頭から武器を出させたとい

うことが書いてあるのですが、まさか岡山に資料があるとは今まで知らなくて。横浜の村のことについてわかる新しい資料だと思います。名主さんの名前も書いてあって、ぜひ歴史博場で見ていただきたい。

羽毛田 おお、それはすごい。ぜひ見て欲しい。

小林 備前岡山藩は武蔵小杉近くの上丸子に滞在して（銃を）集めさせたのですが、そのことも日記に書いてある。村に遺された資料でも上丸子に銃を持って行ったという記録が残っていてそれも展示します。回収されたほうと回収した方、両方の資料が並びます。

小林 新政府軍の通行にあたっての人とか馬、兵糧米やその他諸々の賄い金というものも村々は提供していたんです。円滑にやろうとしたんだと思うんですが、集め方にも新政府軍の工夫があって、東海道の沿いの新政府側についた大名や代官などを利用したんですね。例えば江川太郎左衛門だった品川から神奈川まで、横浜の武州金沢藩だった神奈川から戸塚まで、と決めてその宿場から宿場までの警備、それからそこに集まるはずの人馬・お米・お金を差配させる役目を任せました。地元の人をうまく使ったということですね。

少年が描いた幕末・維新

小林 古文書ばかりの展示になると単調なのですが、それ以外にもぜひ見ていただき



ジョセフヒコと
ヴァンリード（左）
横浜町郷土資料館蔵

鉄砲回収した
岡山藩兵の日記
岡山県立図書館蔵

資料提供：岡山県立図書館
電子図書館システム
「デジタル岡山大百科」



◎表紙・2～5 頁下部写真について

〈作品名〉大総督東下之図 藤沢市文書館寄託「堀内家文書」、藤沢市文書館写真提供 ※藤沢市文書館の許可なく、転載・転用および複写することを禁止します。

奥羽出張病院日記
陸別町関寛斎資料館蔵

慶応4年6月21日付。負傷者を横浜へ後送していることがわかる。



武州金沢藩の日記
横浜市歴史博物館蔵
「武州金沢藩萩原家文書」



たい資料があります。
久保 どのようなものですか？
小林 東海道を進んでくる新政府軍について、当時藤沢の宿場に住んでいた数えで十五歳、満十四歳の少年がその行列を描いた絵巻物があるんです。描かれた舞台は藤沢で横浜ではないのですが、行列の人が一人ずつ違う顔で描いてあったり、錦の御旗も描かれてあったりと、街道を進んでくる新政府軍の様子がしっかりと伝わってきます。この行列は江戸開城が決まった後に通ってきているから、いわば凱旋と言いますか、「見せる行列」として歩いていると思います。長い絵巻なので開く場所を会期中に変えながら、全期間展示をする予定です。ぜひご覧いただきたいです。
羽毛田 開港会場でも絵巻物が展示されるのでしょうか？
吉崎 そうなんです、開港でも、同じ少年が描いた別の絵巻物を展示します。維新の前年の慶応三年十一月に、天から御札が降ってくるという不思議なことが全国で発生して、降ってきた御札を庶民たちは奉ってお祭り騒ぎをするんです。これはいわゆる「ええじゃないか」と言われる幕末の世相、社会不安を表す出来事として知られていて、これが絵巻物に描かれているんです。明治元年の大変動前夜の出来事として開港会場で展示（九月九日まで）をいたします。
羽毛田 こちらも舞台は藤沢なのではないですか？
吉崎 そうですね。横浜を描いたものじゃないんですが、横浜でも同じように御札が降ったという事実は、今回山梨（県立博物館）からお借りする手紙で裏付けられるのです。ですから絵巻に描かれた光景が横浜でも見られたものと考えています。
久保 今度は手紙ですか？
吉崎 そう、商人は山梨の人で山梨の国元に横浜では御札降りがありましたよ、という手紙を送っている。藤沢の御札降りの絵巻物と山梨の手紙、このふたつを一緒に展示すれば横浜でもこんな光景があったんだ、ということがお客さんに伝えられるのではないかと。
小林 ビジュアル的にはこの絵巻物が両館ともに目玉になるものですね。

展示のポイント？
有名人は出てこない！
吉崎 新政府軍が東海道を進んで江戸に行くのですが、その時の村々では小林さんがおっしゃったような動きが、港のほうでは国際貿易港ならではの動きがあるんですね。新政府軍が西からやって来た時の横浜という前提は両館一緒ですが、その結果どんなことが起きたのか、開港会場と歴博会場では違います。二つの展示を合わせて見るのがオススメですね。
小林 今回は、両館の展示内容を時代ではなく面（地域）で分けています。両方を見ると今の横浜地域全体の動きが見えますし、村と港では違うことが起きていたことがわかります。しかもそこにはよく言われるような、有名な人が出てきて歴史を作っているわけではないですね。戦争は起きなかったけれど、戦争を支えていたんです。
羽毛田 よくわかりました。
久保 「名もなき民」が主役の展示ですからね。
小林 もともと学生の頃は戊辰戦争期の村の研究をしていました。そのテーマを勤めている横浜で展示できる、という感慨深い気持ちです。古文書多めですけど。
羽毛田 今うかがったようなお話を、ニュースの誌面を読んでから展示を見ていただけると理解が深まりますね。古文書から歴史を読み解いているんですよ、というところが伝わればいいですね。
小林 武州金沢藩、横浜唯一の藩の日記も歴博会場に展示します。
久保 最後も日記ですね（笑）
小林 ええ、公務日誌なんですけど、去年から市民の方々が翻刻をしてくださっていて、慶応四年（明治元年）分が全部活字化されている（※横浜市歴史博物館紀要21・22号掲載）。それをもとに、地元の人たちが関わったのかということや村々の動きとあわせて展示します。新政府軍の通行に際して宿場の警備をしていた三月～四月頃と明治天皇が東京にやってくる一〇月頃とは、藩の方向性も少し変わったりしているの、どう変わったのかというところもを見てもらいたいかな。
羽毛田 ありがとうございます。たくさん日記でニュースの誌面がいっぱいになり

くというのとは違って、本当の地元で起きていた出来事が見えてくる。
吉崎 開港の展示ではちょっとだけ有名人が出てきますが…。
小林 開港会場の展示に有名人は出てくるけど、伝えたいのはその時の港の実態を資料から明らかにするっていうことですよ。ね？そういう意味においては一五〇年の節目で関心が高まっている中ですから、英雄伝ではなく地元への歴史としての戊辰の横浜を、展覧会をきっかけに知ってもらえるとすごく嬉しいです。
吉崎 そうですね。今回のもうひとつの展示のポイントに横浜に残された資料だけではなく、市外に残されている資料から横浜を見るということがあります。これによって横浜の一八六八年の新たな面が見えてくるんです。
羽毛田 例えば？
吉崎 一つはさきほどの仙台藩の事例ですが、もう一つ、北海道の日本で一番寒いといわれる街・陸別町に残っていた日記からわかるんです。その日記は医者さんが戦争の前線につけていた病院での日誌なんです。茨城県の北茨城市に平潟という町があつて、新政府軍が上陸作戦を敢行してそこから東北地方の諸藩を攻めて行くんです。その前線の病院に新政府軍の負傷兵がどんどん運ばれてくるんですが「治療に手間取る患者は時間をかけていられないから横浜に送れ」というような記述が結構見られるんです。
久保 そこに横浜がでてくるんですね！

吉崎 違いますね。戦争は起きなかったけれど、戦争を支えていたんです。
羽毛田 よくわかりました。
久保 「名もなき民」が主役の展示ですからね。
小林 もともと学生の頃は戊辰戦争期の村の研究をしていました。そのテーマを勤めている横浜で展示できる、という感慨深い気持ちです。古文書多めですけど。
羽毛田 今うかがったようなお話を、ニュースの誌面を読んでから展示を見ていただけると理解が深まりますね。古文書から歴史を読み解いているんですよ、というところが伝わればいいですね。
小林 武州金沢藩、横浜唯一の藩の日記も歴博会場に展示します。
久保 最後も日記ですね（笑）
小林 ええ、公務日誌なんですけど、去年から市民の方々が翻刻をしてくださっていて、慶応四年（明治元年）分が全部活字化されている（※横浜市歴史博物館紀要21・22号掲載）。それをもとに、地元の人たちが関わったのかということや村々の動きとあわせて展示します。新政府軍の通行に際して宿場の警備をしていた三月～四月頃と明治天皇が東京にやってくる一〇月頃とは、藩の方向性も少し変わったりしているの、どう変わったのかというところもを見てもらいたいかな。
羽毛田 ありがとうございます。たくさん日記でニュースの誌面がいっぱいになり

明治150年記念企画展 展示情報

◆横浜市歴史博物館

「戊辰の横浜 名もなき民の慶応四年」
会期：2018年7月21日（土）～9月9日（日）
開館時間：9:00～17:00（券売は16:30まで）
休館日：月曜日
観覧料：一般500円、大学・高校生200円、中・小学生100円

◆横浜開港資料館

「戊辰の横浜 開港都市の明治元年」
会期：2018年7月21日（土）～10月28日（日）
開館時間：9:30～17:00（入館は16:30まで）
休館日：毎週月曜日（月曜が祝日の場合は翌火曜）
入館料：一般200円、小中学生100円

◆展覧会図録「戊辰の横浜」

編：横浜市歴史博物館・横浜開港資料館
A4判112頁
オールカラー
1500円（税込）



「戊辰の横浜」公式ツイッターこちら
@boshin_yokohama





僕自身も最初のうちは、大塚蔵勝土の展覧会にしても、草創期の展覧会にしても、「難しい研究の世界をどうやったら一般の人にわかりや



(写真右) 開館準備室のころ(中区万代町にて、1992年9月)
(写真上) 近影(三田キャンパス安藤研究室にて、2018年6月)
(写真下) 安藤ゼミの風景
弥生研究者のイメージが強い安藤先生ですが、現在の安藤ゼミでは先史考古学の枠組みにとらわれず、幅広いテーマの研究を行っています。この日は五輪塔やたばこ入れについての発表が行なわれていました。



担当した主な展示

開館記念特別展「弥生の"いくさ"と環濠集落」
1995年3月25日(土)～1995年5月7日(日)
企画展「幻の縄文土器の時代」
1996年1月13日(土)～1996年2月18日(日)
特別展「縄文文化誕生」
1996年10月5日(土)～1996年11月24日(日)
企画展「横浜発掘物語」
1998年3月7日(土)～1998年4月12日(日)

1 安藤広道(二〇一七)博物館と弥生時代集落研究
『横浜に稲作がやってきた!?』平成29年度企画展図録、横浜市歴史博物館



新企画「あの学芸員(ひと)はいま」、第一回は歴博の初代考古学担当学芸員である安藤広道先生です。安藤先生は、開館準備室時代から横



あの学芸員は、いま

第1回



安藤広道さん(慶應義塾大学文学部教授)
在職期間:一九九二年(開館準備室)～一九九八年

すく伝えられるか」ということを考えていたんです。だけど一つの転機は「横浜発掘物語」で、より多くの人達が歴史に関わっているというこ

Q 安藤先生は博物館の準備室のころからいらしたんですね?
そう、準備室が二年で、開館してからが三年ですね。当時は刈田さん(当館民俗担当学芸員)と僕が一番若くて、三〇歳くらいでした。
Q 印象に残っていることはなんですか?
横浜市歴史博物館にはやはり思い出がたくさんあります。常設展示や遺跡公園を作るときにもいろいろ苦労したし、形になったときはやはりうれしかったですね。博物館にはそんなに長いこといたわけではないけど、やらせてもらった企画展・特別展の一つが今の自分の礎になっています。

Q 博物館での仕事で今につながっていることはありますか?
昨年の図録に書いたこと「がまさにそうです。横浜市歴史博物館でいろんなことを経験して、その経験がある意味で反省しつつ、今の仕事につなげています。博物館で仕事をしていたことは、大学の中だけで考古学の研究をやってきた研究者とは、考え方が違ってくるころがあると思います。博物館に勤めた経験のある人間は、必ず社会とのつながりというものを意識して研究するようになるんじゃないかと。それが自分の今の研究にとっては大きな意味をもっています。その辺は、図録を読んでもらえれば。

Sports!
Doki Puzzle

スポーツ土器パズル

横浜市歴史博物館の開館当初から、イベントなどで人気の土器パズル。

2018年1月の博物館感謝デーから、「スポーツ土器パズル」としてリニューアルしたという。

土器パズルがスポーツ? 一体どういうことなのだろうか? 担当者に話を聞いてみた。



Jommon

記者 「スポーツ土器パズルって、どういうものなんですか?」

担当者 「スポーツ土器パズルといっても、パズル自体はこれまでと同じです。もちろん二十何年使っているの、メンテナンスはしていますけれどね。」

記者 「それでは、どのあたりが変わったんですか?」

担当者 「これまでは『遊び』の面が強かったのですが、ルールをきちんと整備して、タイムを競う競技、スポーツとして取り組んでもらおうということです。スポーツチャンバラやスポーツ雪合戦のようなイメージですね。」

記者 「具体的にどういう部分でしょう?」

担当者 「基本的にやることは同じですが、競技エリアを設定して、選手以外は立ち入れないようにしました。これまでマナーとして守っていただいていた部分を、ルール化したというところでしょうか。スタッフ側には、公平性を担保するために、毎回の競技終了後のかき混ぜを徹底的に行うことなどが求められます。将来的には、世界記録を公認したり、ソロ部門とチーム部門を分けることも考えていますね。」

記者 「感謝デーで大会をやったと聞きました?」

担当者 「はい、第一回スポーツ土器パズル大会を実施しました。縄文土器の部・弥生土器の部ともに多くの参加があり、大変盛り上がりましたよ。」

記者 「なるほど、スポーツ土器パズルの魅力はどんなところですか?」

担当者 「お子さんからお年寄りまで、年齢を問わずに楽しめることです。パズルといっても頭を使うだけではなく、土器の周りをかなり動き回りますし、かけらははめるには手先の器用さも必要になります。頭と全身をバランスよく使って遊べるのが魅力ですね。」

記者 「私もやってみたくなりました(笑)」

担当者 「毎月最終土曜日にラスサタ大会を実施しています。各月大会の優勝者は、来年感謝デーの第2回大会にシードで出場できます。いわば本大会に向けての予選ですね。第1回大会の優勝者を上回るタイムが出たり、レベルは確実に高くなっていますよ。」

記者 「ニュースポーツとして、今後の普及に向けての課題は?」

担当者 「やはり何といっても、この特注の機械が無いとプレイできない点がネックでしょうか... とりあえずは、歴博でどんどん大会をやりますので、ふるってご参加ください!」



1. 感謝デー大会で設置された、スポーツ土器パズルコロシアム。
2・3. 優勝カップは、博物館の理事長室と館長室に飾られている。優勝者には、副賞としてトロフィーと博物館の年間パスが贈られた。

Yayoi





おつか さいかちどいせきこうえん

大塚・歳勝土遺跡公園だより

— かやぶき屋根プロジェクト 始動 —

茅たたく人

文「茅刈り人」達

(高橋健/羽毛田智幸/橋口豊)

前回の遺跡公園だよりで「茅刈り人」となった私たちは、平成29年度をとおして「かやぶき屋根プロジェクト」に取り組みました。この場を借りて報告します。

その目的は、復元竪穴住居を実際に修繕することによる茅葺き技術の蓄積です。具体的には全5回の研修を行いました。講師には私たちが「茅刈り人」になるきっかけを作っていた「富士かやぶき建築茅吉」の杉寄靖司氏をお迎えしました。

研修にあたってまずは協力者を募らなくてはなりません。「茅刈り人」達による度重なる検討の末、近隣在住者を中心として研究に関係ある学生、やる気あふれる主婦、経験者など10名程度ですが、老若男女多彩な人材に参加いただけることとなりました。

次に修繕するための「雁木」という道具を準備しました。これは経年によって浮き上がった茅をたたき込むための木製の道具です。日常の管理に必須となります。

果たして平成29年9月30日に無事第1回目の研修を大塚・歳勝土遺跡公園で行うことができました。初回は朝霧高原茅場についての紹介と基本的な修繕方法のレクチャーを受け、11月25日に開催した2回目には、

早速本格的な修繕を行いました。大塚遺跡内の復元竪穴住居(Y-39号)を対象に、傷んだ茅を新たな茅と交換する「差し茅」や「雁木」を使ったたたき込みの指導を受けました。平成30年2月23日には第4回研修として引き続き復元竪穴住居(Y-39号)の修繕を行いました。「差し茅」用の茅束作りから足場を据えて高所での「差し茅」の技術を学びました。

12月9・10日、平成30年3月10日には第3・5回目の研修として朝霧高原茅場での茅刈りを行いました。今年から新たに参加された方に「茅刈り人」になってもらうことと、修繕に必要な茅を確保することが目的です。朝霧高原の茅は他の茅場と比較して背が低いのですが、刈り集めて束ねると非常に大きく感じられます。なお、研修参加者はいずれも無事「茅刈り人」になることができました。

5回の研修をとおして茅葺き屋根修繕の基礎を学ぶことができました。そして平成30年度以降も引き続き「かやぶき屋根プロジェクト」は継続していきます。「茅刈り人」かつ「茅たたく人」達の活躍にご期待ください。

Mini-Exhibition

常設展示室ミニ展示 アーカイブ

2017

(6月17日～8月6日)

横浜市域の中世資料
久良岐郡永田郷の中世文書

中世の武蔵国永田郷の旧家には、戦国時代から地域の支配にかかわったことを示す複数の中世文書が伝わり、横浜市の文化財に指定されています。本ミニ展示ではこれら中世文書をと戦国末期の永田郷の様子をご紹介します。

前期 6/17～7/14

・豊臣秀吉禁制 (天正18年・1590)4月
・北条氏勝判物 (天正18年・1590)4月

後期 7/15～8/6

・北条家朱印状 (天正15年・1587)7月晦日
・北条家朱印状 (天正9年・1581)8月17日

2017

(8月19日～10月1日)

御馬、みやこへ行く
—古代の牧と馬をめぐる—

平安時代、東国4カ国には、天皇にたてまつる馬を育てる勅旨牧ちよくしまきがおかれていました。横浜市域にはそのうち2箇所の牧があったといわれています。武蔵国の勅旨牧で育てられた御馬みうまは、東海道を通ってのはるばる都へ向かい、朝廷では御馬たちを迎える儀式がおこなわれました。本ミニ展示では、勅旨牧と御馬について、和本や絵巻を通じてご紹介しました。

2017

(10月8日～11月26日)

博物館実習展 “こけし”を伝える
—博物館資料の整理・調査の中から—

本ミニ展示は、学芸員資格の取得を目指す実習生が中心となって実施いたしました。タイトルに「伝える」としたのは、こけしを整理する中で気がついたこと、疑問に思ったこと、面白いと思ったことなどを調査・研究で深め、お客様に伝えて欲しいと考えたからです。解説文の執筆、さらには展示レイアウトの検討まで、すべて実習生が担当しました。展示したこけしも決して実習用の教材ではなく、実際に市民の方から寄贈された本物の博物館資料です。実習とはいえ本物の文化財に触れ、さまざまな経験知を獲得して頂けたのではないのでしょうか。



展示作業中の博物館実習生

2017-8

(12月23日～5月9日)

よみがえれ!横浜のハニワたち

横浜市歴史博物館では、平成29年度から公益財団法人朝日新聞文化財団の「文化財保護助成」を受け、上矢部町富士山古墳(戸塚区)から破片となって発見された、100個体にもよる埴輪(横浜市指定文化財)の整理・復元事業を行っています。事業を進めるにあたっては、公募寄附金「よみがえれ!ヨコハマのハニワたち」を通じて、多くの来館者・市民のみなさまのご協力をいただいておりますが、本ミニ展示では、ご支援への感謝と皆様へのご報告として、平成29年度の作業成果の一部をご覧いただきました。※好評につき会期を延長いたしました。



復元作業中の埴輪も展示しました。

横歴myキャラクターズ決定!

第1回「myキャラ」募集企画応募作品の人気投票は、予定通り館内投票およびInstagramの「いいね」数を合算集計し、2018年1月28日(日)の博物館感謝デー会場にて上位10作品の発表をしました。今号が初デビューとなる「横歴myキャラクターズ」をご紹介します。

第6位 得票数18票

どっきー

エントリーNo.338

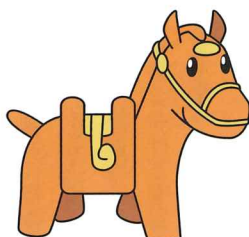


人面付き土器のどっきーといいます。よく驚いて割れちゃうんです。よろしく。

第5位 得票数18票

はにー・ポニー

エントリーNo.222



古墳時代からたくさんものを見てきたよ。いつかみんなに「うま」のこともお話ししたいな。

第4位 得票数20票

ユニ子

エントリーNo.330



私は博物館が大好きで、いろんな時代を行ったり来たりしているの。

第3位 得票数22票

おおつかさいかちどん

エントリーNo.408

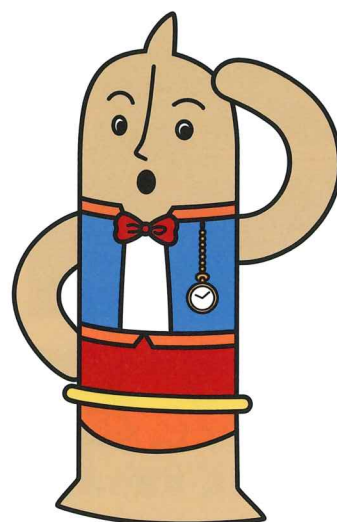


だれかぼくを探して、そしてお友達になってください…。

第2位 得票数41票

はにわの「ハニー君」

エントリーNo.405



わたくし、実は横浜人ではございません。ではどこ出身か…それはみなさま、お調べくださいませ。

第1位 得票数65票

どき子

エントリーNo.253



スカートの縄文と頭のリボンが気に入りのおしゃれさん。

第10位 得票数15票

歴丸くん

エントリーNo.102

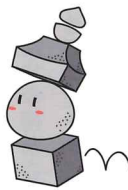


歴史と剣術が大好き。早く立派な武士になれるように修行中!

第9位 得票数16票

ごーりん

エントリーNo.114



五輪塔のごーりんです。とにかく、地味が好き。地味に生きたい。ゴロツ…

第7位 得票数17票

はにわろけっと

エントリーNo.259



ヒャッホー! はにわの世界へ超高速でつれていくよ!

第7位 得票数17票

ドッキー

エントリーNo.038



僕は割れない土器のドッキー。レックルと同じ時計を持っているのが自慢!



投票結果を発表する鈴木館長



館内での作品の掲示風景



栄えある第1回の上位10作品

募者の年代も、モチーフ作品も見事にばらける面白い結果となりました。入選の皆さん、おめでとうございます。そして、投票に参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

いよいよ〇〇作品が形となり「横歴myキャラクターズ」として、横浜市歴史博物館マスコットキャラクターの「レックル」とともに、様々に活躍してもらうことになりました。どうぞよろしく願います。

当初、博物館側での事前選考を経てからの人気投票も検討しましたが、今回はあえてそれを行っていません。応募者、投票者ともに、行事に参加してくれたそのことの重みを大事にしたいと思ったからです。

人気投票は館内だけでなく、SNSのInstagram(「tekhaku mychara」のアカウントで作品を公開し、締切時点での「いいね」数を得票として合わせて集計したところ、館内投票数七四五票(FAX票含む)に対し、Instagram投票数一、一六四票とSNSでの投票率が高いことが際立ちました。

なお、引き続き九月下旬まではインスタ公開を続行する予定でありますので、関心を持たれた方は、ぜひアクセスして作品をお楽しみください。

さて、投票結果はご覧の通り子どもから大人まで応

常設展示室にある展示物の中から、自分が気に入った、あるいは興味をもった展示物を選び、キャラクター化してみるという企画は、二〇一七年一月三〇日締め切り日までに総数四二二点が集まりました。

応募締切後、いつもはポスターを掲示する広い掲示板や、今までに使ったことがないスロープ壁面までもフル活用して全作品を館内に掲示し、目の前に投票用紙と投票箱を設置し、ご来館の方々に任意で投票をしていただきました。(二〇一七年二月一六日から二〇一八年一月二八日まで)

通常のポスターより低い位置に作品を掲示したこともあり、小さな来館者にも気づいてもらうことができ、またご家族やお友達と作品について笑顔でコメントしあう姿など心あたたまる光景に出会うたびにうれしく感じました。

常設展示室にある展示物の中から、自分が気に入った、あるいは興味をもった展示物を選び、キャラクター化してみるという企画は、二〇一七年一月三〇日締め切り日までに総数四二二点が集まりました。

応募締切後、いつもはポスターを掲示する広い掲示板や、今までに使ったことがないスロープ壁面までもフル活用して全作品を館内に掲示し、目の前に投票用紙と投票箱を設置し、ご来館の方々に任意で投票をしていただきました。(二〇一七年二月一六日から二〇一八年一月二八日まで)

Instagramはこちら!



横浜に伝わる新羅華嚴宗の高僧、見登の著作

文 鈴木靖民

古代・中世の横浜地域には、外国の人たちとの関係がどれほどあったのでしょうか。隣の鎌倉市の場合、幕府が置かれ、武士たちの信仰する禅宗の隆盛にもなつて中国の宋の僧たちが来て寺院に住み、教学に努めたことはよく知られています。横浜の金沢、当時の六浦湊は鎌倉への玄関口であり、彼らがそこを行き来したことは想像がつきます。六浦と鎌倉は一体だったのです。

では朝鮮との関係はどうだったのでしょうか。ちょうど一年前の昨年（二〇一七年）七月、神奈川県立金沢文庫で、新羅の元曉（げんぎょう）という華嚴宗の高僧をテーマとした展示が開かれました。金沢文庫に接する称名寺は北条実時が開いた寺院で、その三代住職の湛（たん）睿（すい）に代表される僧たちは華嚴宗の祖師として七世紀に活躍した新羅の元曉と義相（ぎさう）（義湘）をあがめ、その注釈

を数多く書写し、講説して教義や思想の研究に邁進したのです。華嚴宗の西の拠点法統を誇る東大寺ですが、東は称名寺が鎌倉の極楽寺とともに一大拠点として盛況を呈しました。所蔵する經典類は「称名寺聖教」と称して国宝に指定され、金沢文庫が保管して調査、研究がなされ、市民や研究者が見ることもできます。

私は一九九四年、神奈川県外部が刊行した『神奈川と朝鮮』の古代・中世を執筆した時に、湛睿の偉業を取り上げたことがありました。昨夏の展示では、元曉、義相の肖像画や沢山の經典や文書、絵巻が並べられ、国宝、重要文化財級が多く、圧倒される思いでした。しかも日本で朝鮮の歴史、文化や人物を中心にテーマにして展覧し、シンポジウムを開くのは、私の知る限り古代の加耶や百済などの考古学、出土文字史

料などを除くと初めてのことで、画期的だったといえます。

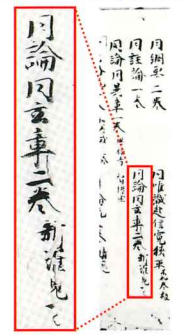
この展示は經典などを通して朝鮮の華嚴宗の日本への伝来、普及を考えさせるだけでなく、新羅僧の唐宋での修学、求法、巡礼をも伝える内容でしたが、私は日本での華嚴經典による教学研究が古代・中世だけでなく、江戸時代にも脈々と続いていたことを知り、心が動かされました。

私が特に関心を抱くのは古代史です。日本から新羅に留学した僧たちには『日本書紀』の七世紀の記事などに見られ、なかでも帰国後、東大寺の創建の時、初めて華嚴經を講じた大安寺の審祥（しんしやう）が有名ですが、逆に新羅から日本に来て布教した僧はいないかと常々考えていました。『日本書紀』には七世紀末の持統期頃、武蔵などの東国の開発のために多数の新羅人男女が集団で移住し、僧尼も同

行したと記されています。実際、各地でその形跡を示す遺物が出土しています。『万葉集』には新羅の尼、理願が平城京の伴家持の父、家麻呂の家に半世紀以上住んで亡くなったとあります。私は彼女が華嚴学を教え、広める役目を担ったのではないかと推測しました（『古代日本の東アジア交流史』）。

ところが元曉展で、称名寺所蔵の一三、四世紀書写の葉っぱの形をした『華嚴一乘成仏妙義』を目にし、その著者、新羅僧の見登のことを初めて知りました。韓国の研究者、金天鶴さんは、日本の九、一〇世紀の『華嚴宗所立五教十宗大意略抄』に新羅華嚴宗祖師として「見登菩薩」の名があり、八世紀、奈良時代後期の東大寺僧、寿靈の『五教指事』を引用するので、彼は日本で活動した可能性があると述べています（『アンニョンハセヨ！元曉大師』（展示図録）。研究史を繙くと、『大乘起信論同異略集』や『東域傳燈目録』の「同論（起信論）同玄章」の著者にも「新羅見登」が見え、彼の出自と活動

をめぐって高翊晋さんと崔鉉植さんなどの説もあることがわかりました（『韓国古代仏教思想史』、『印度學佛教学研究』五〇二、五六二、『韓国史研究』一〇五）。しかし彼のことは日本の事典類にも載っていません。



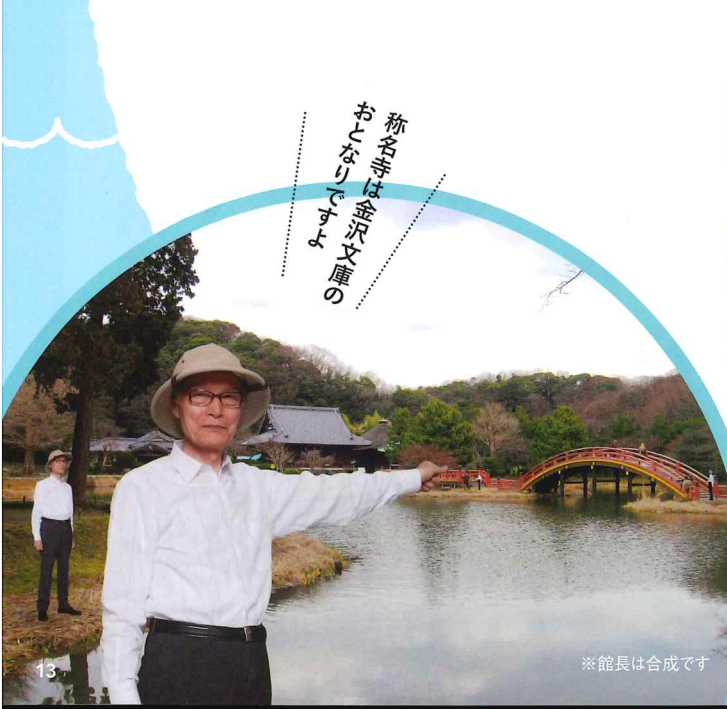
東域傳燈目録
（『高山寺本東域傳燈目録』
東京大学出版会1999年）

七、八世紀、新羅華嚴宗の日本への受容には、日本僧の留学だけでなく新羅の僧尼の渡来、布教による影響も大きかったでしょう。見登の例は高僧の来住、經典の著述、講説が行われ、日本僧との交流があったことを示唆しています。新羅から来た大勢の移住民や僧尼の存在が背景にあるかもしれません。

見登が幕末明治の外国の宣教師のように、はるばる東国にやって来たかどうか、来日したかどうかとも不確かです。でも私は古代の外国人の活動を映し出す著作が、横浜の称名寺に伝わる聖教のなかにあることを喜ばしく思っています。



国宝 華嚴一乘成仏妙義 称名寺所蔵（神奈川県立金沢文庫保管）
『アンニョンハセヨ！元曉大師』（2017年特別展図録）より転載



※館長は合成です



横浜市歴史博物館では、博物館ニュースの誌面でもお伝えしている「かやぶき屋根プロジェクト」をはじめ、これまでの博物館の枠にとらわれない新しい特別なプロジェクト型の事業をすすめています。クラウドファンディングを通じた、皆さまからの博物館全体の活動へのご支援、個別のプロジェクトへのご支援をお待ちしております。個別のプロジェクト内容をはじめ、詳しい内容は下記のURLをご参照下さい。順次情報を更新いたします。

URL <https://japangiving.jp/supports/33828>

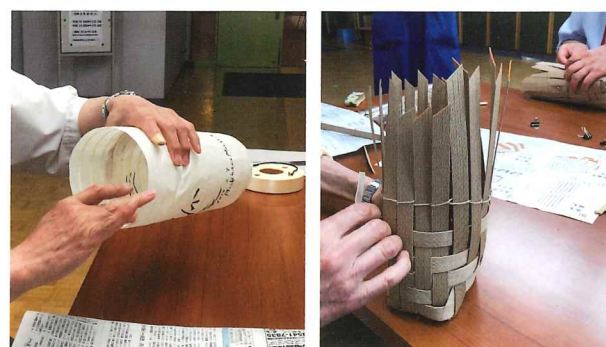
博物館のクラウドファンディング はじめました



れきし工房が リニューアルします

この夏、博物館のワークショップ「れきし工房」がさらに進化！
その場で作れる！夏休みの思い出にオリジナル作品をつくろう！！

これまで大塚・蔵勝土遺跡公園内の工房にて事前申込で開催してきたワークショップ「れきし工房」ですが、7月25日（水）から、開館日であればいつでも作って当日持ち帰れるメニューを加えてリニューアルします！
ミュージアムショップでオリジナルキットをお求めいただくと、博物館2階の体験学習室で「まが玉」、「小田原提灯」、「あじろ編み」、「まゆ細工」をお作りいただけます。初めての方もスタッフがお手伝いしますので安心してチャレンジしてください！
ただいま、活動支援ボランティアのスタッフもみなさんに作り方が教えられるよう、ものづくりのコツを特訓中です！



※作るものによってかかる時間が異なりますので、詳細はホームページまたはチラシでご確認ください。



小田原提灯



あじろ編み

歴史のお話を絵本にしました

Museum Shop pick up Item ミュージアムショップ ピックアップアイテム



横浜で生まれ育った子どもたちに知ってもらいたい歴史のお話を絵本にしました。学芸員がわかりやすく書き下ろした文章とかわいいイラストが目印です。ミュージアムショップで好評販売中です。

1	2
3	4

- 『よこはまのまわりじぞう』
 - 『よこはまのおしゃもじさま』
 - 『よこはまのうらしまろう』
 - 『戦国 まいたのはなよめ』
- 各定価 850円 148mm×148mm

